

令和5年度

岡山県立博物館協議会

第2回 開催要項

1 開会

2 展示室視察

3 議題

(1) 令和5年度事業について

- ア 展覧会
- イ 教育普及事業
- ウ 入館状況

(2) 令和6年度展覧会計画(案)について

- ア 展覧会
- イ 予算

(3) 長期展覧会計画(案)について

(4) その他

4 閉会

日時：令和6年3月22日(金) 13:30～

会場：岡山県立博物館 講堂

(1) 令和5年度事業について

ア 展覧会

令和5年度 展示実績

令和6年3月22日現在

	1階展示室 (考古・通史・民俗)	2階展示室 (テーマ展・刀剣・備前焼・工芸)	2階ホール
4/1～5/7 春季展 37(32)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 旅と行楽	テーマ展「名刀 福岡一文字の光彩」 みなさまからご寄贈いただいた刀剣 備前焼	
5/11～6/18 夏季展(1) 39(34)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 旅と行楽	テーマ展「美作勝山城の実態に迫る」 県北の仏教美術 みなさまからご寄贈いただいた刀剣 備前焼	
6/22～7/23 夏季展(2) 32(28)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 【交通】絵馬に描かれた船	テーマ展「涼をよぶ岡山の伝統工芸」 県北の仏教美術 みなさまからご寄贈いただいた刀剣 備前焼	
7/28～9/3 特別展・夏季展(3) 38(33)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 【交通】絵馬に描かれた船	特別展 「慈悲のほとけ —観音と古寺の名宝—」	中国観音霊場の紹介
9/9～10/15 秋季展(1) 37(31)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 薬・医学、郷原漆器	テーマ展「正宗文庫と正宗敦夫」 赤羽刀 備前焼	
10/20～12/3 特別展・秋季展(2) 45(39)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 薬・医学、郷原漆器	特別展 「醸す —自然と技術が育んだ岡山のお酒—」	酒樽の展示
12/8～1/14 冬季展(1) 38(30)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 熊野染夜着ほか	テーマ展「八幡大塚古墳と児島屯倉」 岡山の仏像 赤羽刀 備前焼	1/3 兜体験 1/6 考古イベント
1/18～2/25 冬季展(2) 39(34)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 熊野染夜着ほか	テーマ展 「岡山藩主祈りの寺 常住寺の寺宝」 赤羽刀 備前焼	
2/29～4/7 春季展(1) 39(34)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 室戸台風の爪あと	テーマ展「岡山の戦国時代」 ご寄贈いただいた資料—近世絵画— 赤羽刀 備前焼	ミニ講座開催 予定(2回)

特別展 自己評価シート

展覧会名 特別展 「慈悲のほとけ ー観音と古寺の名宝ー」		開催期間 令和5年7月28日(金) ～9月3日(日)							
入館者等	合計	7,443人			収入予算額	1,806千円	実績	1,798千円	
	一般	4,792人	65歳以上	2,108人	その他	543人	支出予算額	12,518千円	実績
展示の趣旨・目的 人々をさまざまな困難から救う仏として信仰されてきた観音菩薩を紹介するとともに、中国地方の霊場会寺院に伝わる名宝を紹介する。									
入館者アンケート								満足度	86%
<肯定的> ・中国観音霊場に伝わる観音像を一度に拝め、普段は見ることのできない秘仏も見ることができた。 ・観音像を横や後ろなどいろいろな角度から拝観できた。 ・実際に中国観音霊場の寺院にも行ってみたいと思った。									
<否定的> ・解説の回数を増やしてほしい。 ・～時代と表記するだけでなく、世紀も表記してもらえるとわかりやすい。 ・QRコードを使った解説を取り入れてほしい。									
自己評価		全体評価 県内外のさまざまな観音像や、寺院に伝わる彫刻・絵画・工芸品などの優品を紹介し、幅広い世代の方々に楽しんでいただける展覧会となった。また、33年に一度のみ開扉される秘仏である法界院蔵「聖観音菩薩立像」を展示したことで、多くの方からの注目を集めることができた。							
個別評価					工夫・改善点				
①資料調査 調査時期がコロナ禍にかかったため、予定通り実施できないこともあったが、関係者と連絡を密にとりながら、借用に向けて事前調査を行った。					貴重な作品を借用するためには、所蔵者との信頼関係と、かなり早めの連絡調整が不可欠である。また、仏像などの資料調査は2人以上で行くことが望ましい。				
②資料借用 事前調査で資料の状態確認や搬送経路を確認しておいたため、予定通り安全に借用することができた。					夏の展示のため、資料の借用時期が梅雨と重なり、移動時に雨よけの梱包に時間を要し、搬送時にも慎重な作業が必要だった。借用時期はできるだけ梅雨を避けるのが望ましい。				
③展 示 事前に展示図面を設計していたため比較的スムーズに展示できた。また、借用時の調書を確認しながら開梱時の安全面にも注意した。					改修工事により展示室が一新され、12メートル超ある西大寺縁起絵巻を全場面展示することができ、展示品の魅力をより一層伝えることができた。				
④返 却 事前の打ち合わせと準備を早めに進め、ほぼ予定通り返却できた。					安全確保と学芸員の経験を積むためにも、借用・返却には専門業者以外に複数名で対応するのが望ましい。				
⑤図録等作成 写真の借用等でスケジュールが遅れることもあったが、期限内に完成した。図録は好評で、会期中にはほぼ完売となった。					原稿執筆・図録編集には相当な労力が必要であり、展示資料の調査をしながら原稿を作成しなければならないため、早めに計画を立てて効率的に取り組む必要がある。また、関係する学芸員と協力して作成することも必要である。				
⑥関連行事 講演会(1回)、ワークショップ(のべ8回)、展示解説(3回)、子ども向け展示解説(1回)を実施し、盛況を得た。来館者用の写真スポットも好評であった。					夏休み中の開催ということもあり、大人だけでなく子どもも楽しめるような展示解説・ワークショップを実施した。				
⑦広 報 通常の広報先に加えて、所蔵者の寺院などでもチラシの配布・ポスターの掲示を依頼した。また、SNSも活用した。					広報については、外部から告知が遅いとの指摘があった。来館者数を増やすためにも、SNS等を活用した発信や、チラシの作成・配布など、早い時期からの積極的な広報が必要である。				
【その他】									
■報道関係 新聞への掲載回数 24回 ■SNS関係 投稿回数 35回 (X:33回、Facebook:2回)									

特別展 自己評価シート

展覧会名 特別展 「醸す - 自然と技術が育んだ岡山のお酒 -」		開催期間 令和5年10月20日(金) ~12月3日(日)						
入館者等	合計	4,468人			収入予算額	1,778千円	実績	810千円
	一般	2,857人	65歳以上	895人	その他	716人	支出予算額	5,179千円
							実績(見込)	5,179千円
展示の趣旨・目的 岡山の風土で育まれた岡山の日本酒、その歴史や文化を資料を通して紹介する。								
入館者アンケート							満足度	80%
<肯定的> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山の酒造り文化について、幅広い視点から知ることができた。 ・酒造工程に沿って道具が展示してあり、わかりやすく見やすい展示だった。 ・学芸員の説明がわかりやすくてよかった。 								
<否定的> <ul style="list-style-type: none"> ・工程順にはなっているが、関係のあるものが展示されているだけで、メッセージが感じられなかった。 ・ポイント(見どころ)の説明があればよかった。 ・現在の機械化された工程の写真と見比べてみたかった。 								
自己評価		全体評価 岡山県の日本酒を初めて幅広く総合的に捉えた展覧会として、多くの資料を展示し、知ってもらう機会とすることができた。						
個別評価					工夫・改善点			
①資料調査 調査時期がコロナ禍にかかったこと、また酒蔵が酒造時期と重なったこと、さらには、人事異動に伴い、当館の担当者が代わったことで、調査期間が短かった。					特別展調査の期間の確保と当館担当者が代わっても開催できる館内の体制の強化が必要である。			
②資料借用 県内各地の酒蔵からの借用が多く、公用車での運搬に日数がかかったが、酒蔵が協力的でスムーズに行われた。六尺桶などの大きな資料についても業者と連携し問題なく運べた。					現在の公用車では資料が一度に積載できず、その結果借用の日数や公用車の運行に時間がかかった。早めに借用計画を立てて取りかかる必要がある。			
③展 示 資料を調査・精選する時間が十分確保できなかったため、多くの資料を展示せざるを得なかった。					展示室だけでなく、1階受付や2階ホールなども活用し、展示の幅や、館全体の有効利用の可能性が広がった。			
④返 却 酒蔵の繁忙時期や年末年始の休館と重なって日数と時間がかかったが、無事終了できた。					借用に同じ。			
⑤図録等作成 執筆が遅れたり写真撮影に時間がかかったりと、全体的に遅れてスケジュールが厳しかったが、期日内には完成した。					事前に十分な時間をかけて原稿を作る必要がある。また、業者との調整についても時間をかけて丁寧に行う必要があった。			
⑥関連行事 講演会(2回)、トークイベント(1回)、展示解説(3回)を実施し、ともに好評であった。					展覧会の内容を工夫して、子ども向けの関連行事が開催できるとよかった。			
⑦広 報 通常の広報に加えて、SNSなどでも発信した。また、酒蔵にチラシ・ポスターの掲示を依頼した。					マスコミなどへ情報提供やチラシを各所に持って行って配布するなど、検索をかけてヒットする情報だけでなく、自然と目に入ってくる媒体への広報も必要である。			
【その他】 <ul style="list-style-type: none"> ■報道関係 新聞への掲載回数 25回 ■SNS関係 投稿回数 27回 (X:24回、Facebook:3回) 								

〈テーマ展 実績〉

令和6年3月22日現在

展 示 名	名刀 福岡一文字の光彩	
期 間	令和5年4月1日(土)～5月7日(日)	
趣 旨	鎌倉時代初期に後鳥羽上皇の御番鍛冶として数多く選出された備前の刀工集団「一文字」派の呼称は、天下一を意味する「一」の銘を茎に刻むことに由来するともいわれ、名工則宗を祖とし、鎌倉時代中期には福岡一文字派として最盛期を迎え、豪華絢爛な丁子の刃文で一世を風靡した。本展では、岡山ゆかりの備前刀への関心を高め、理解を深めることを目的とし、福岡一文字派の作を中心に、その特徴やみどころを紹介する。	
主要展示資料	重要文化財 太刀 銘 則宗 重要美術品 太刀 銘 正恒 国宝 太刀 無銘 一文字(号 山鳥毛) 国宝 太刀 銘 吉房 重要文化財 太刀 銘 一 重要文化財 刀 無銘(伝 吉房) 重要美術品 太刀 銘 助吉 太刀 銘 長則	岡山県立博物館蔵 岡山県立博物館蔵 備前長船刀剣博物館蔵 林原美術館蔵 林原美術館蔵 林原美術館蔵 林原美術館蔵 吉備津彦神社蔵
備 考	入館料 大人250円、65歳以上120円、高校生以下無料 会場 第4展示室 連携展示 「おかやまサムライ巡り」 同時期に開催する、林原美術館企画展「戦記×刀一駆け抜けた サムライたちの夢の跡」、岡山城天守閣「戦国に生きる」と展示内容や関連行事(スタンプラリー)で連携	
成果・課題	国宝2点を含めて備前一文字の名刀を展示し、多くの来館者に見ていただくことができた。事前の広報・周知はかなり早くから行う必要があり、今後の展示に向けての課題としたい。	

展 示 名	美作勝山城の実態に迫る	
期 間	令和5年5月11日(木)～6月18日(日)	
趣 旨	明和元(1764)年、三河国西尾藩主の三浦明次に美作国真島郡への転封が命じられた。三浦家は、戦国時代には美作国西部を代表する城郭であった高田城を勝山城と改めて、三の丸に御殿を設け、ここに、明治維新まで続く美作勝山藩が誕生した。本展では、この美作勝山城に着目し、高田城と呼ばれたころから、明治維新後に廃城となるまでの移り変わりを紹介することで、美作勝山城、美作勝山藩及び岡山県の歴史の奥深さを知っていただく。	
主要展示資料	大友義統書状 美作国真島郡勝山城地絵図 御領知目録	岡山県立博物館蔵 岡山県立記録資料館蔵 真庭市教育委員会蔵
関連行事等	学芸員による展示解説 5/13(土)、5/27(土) 真庭市立中央図書館でのオンライン展示解説会 5/28(日)	
備 考	入館料 一般250円、65歳以上120円、高校生以下無料 会場 第4展示室	
成果・課題	古文書や絵図などを用いて、美作勝山城が高田城と呼ばれたことから廃城までを編年的に紹介することができた。美作国内における美作勝山城の役割を考えることが今後の課題である。	

展 示 名	涼をよぶ岡山の伝統工芸 ー花ござと撫川うちわー
期 間	令和5年6月22日(木)～7月23日(日)
趣 旨	岡山県南部はかつて藺草の栽培が盛んで、明治から昭和時代にかけて高品質の花ござが大量に製造され、特に明治期には日本の代表的な輸出品のひとつであった。撫川うちわは、江戸時代より撫川・庭瀬(岡山市北区)にて武士の内職で生産されたといわれ、俳句や花鳥風月を表した透かし絵が特徴である。岡山の伝統産業・伝統工芸品について知っていただくとともに、これらの涼やかなデザインをとおして岡山の夏を感じていただく。
主要展示資料	錦莞莖および磯崎眠亀関連資料 織込花莖、輸出用花莖 撫川うちわ
関連行事等	学芸員による展示解説 7/1(土)、7/15(土)
備 考	入館料 一般250円、65歳以上120円、高校生以下無料 会場 第4展示室
成果・課題	備中南部が特産地であった花ござと撫川うちわを、まとめて展示することができた。ライティングの工夫などにより、夜間どのように見えたのかも工夫できた。展示解説の際に、実際に撫川うちわをもっていただくなどの工夫を行ったが、専門用語をわかりやすく説明できるような工夫などを今後に向けて行っていきたい。

展 示 名	正宗敦夫と正宗文庫
期 間	令和5年9月9日(土)～10月15日(日)
趣 旨	正宗敦夫(1881-1958)は、和気郡伊里村(現備前市穂浪)出身の国文学者・歌人として知られている。敦夫は生涯を通して、郷土岡山の歌人・学者の重要著作をはじめとする貴重な書籍や典籍などを蒐集し、昭和11(1936)年には自宅近くに財団法人正宗文庫を創設する。本展では一般財団法人正宗文庫、就実大学人文科学部、国文学研究資料館の協力を得て、正宗敦夫の業績を顕彰するとともに、全国初公開の資料も含め、敦夫の遺した正宗文庫がもつ資料の豊かさを広く県民に紹介し、郷土岡山への愛着や誇りの醸成を図る。
主要展示資料	井田村神社奉納三十六歌仙稿本(正宗直胤筆) 一般財団法人正宗文庫蔵 ト養狂歌集 一般財団法人正宗文庫蔵 俱舎論音義 一般財団法人正宗文庫蔵
関連行事等	ミニ講座+ショートギャラリートーク 9/10(日) 専門家と当館学芸員による展示解説 9/23(土・祝)、9/30(土)、10/14(土)
備 考	入館料 一般250円、65歳以上120円、高校生以下無料 会場 第4展示室
成果・課題	研究機関や資料収蔵機関との共催によって、これまで当館で取り上げたことのない正宗敦夫という人物、および正宗文庫が有する貴重で豊かな資料を紹介することができた。研究機関の成果を汲んだうえで、それを資料配置や見せ方を含めた展示に活かすことが今後の課題である。

展 示 名	八幡大塚古墳と児島屯倉	
期 間	令和5年12月8日(金)～令和6年1月14日(日)	
趣 旨	<p>欽明天皇 17(556)年、中央集権化を進める大和朝廷は、児島に直轄地、屯倉を設置した。屯倉の推定位置に近接して築かれた八幡大塚古墳は、副葬品や墳丘の規模などから屯倉とのかわりが考えられてきた。この古墳は大形の円墳とされてきたが、この時期の吉備で屈指の規模、全長 64mの前方後円墳であったことが明らかになった。本展では、八幡大塚古墳の副葬品や屯倉が主導したとみられる大規模な塩生産の遺跡を紹介する。また、この古墳が吉備の後期古墳のなかでどのような位置を占め、以降の古墳にどういった影響を与えたかについてもふれる。</p>	
主要展示資料	岡山市 八幡大塚 2号墳副葬品 岡山県立博物館蔵	岡山県立博物館蔵
	玉野市 出崎長崎遺跡製塩土器層剥ぎ取り	岡山県立博物館蔵
関連行事等	<p>学芸員による展示解説 12/16(土)、12/23(土)、1/13(土)</p> <p>中高生対象！学芸員とトーク「墳丘墓や古墳について語ろう」 1/6(土)</p>	
備 考	入館料 一般250円、65歳以上120円、高校生以下無料 会場 第4展示室	
成果・課題	最新の研究成果を展示し、6世紀の児島、そして吉備の姿をある程度は示すことができた。資料の詳細な分析と公開が今後の課題である。	

展 示 名	岡山藩主祈りの寺 常住寺の寺宝	
期 間	令和6年1月18日(木)～2月25日(日)	
趣 旨	<p>岡山藩主池田家の祈祷寺であった常住寺には、藩主ゆかりの書画や仏像が伝わっている。祈祷の本尊である仏像は、池田継政ゆかりの不動明王をはじめ大小の厨子が多数残る。また、休館中の調査により第三代藩主池田継政や第四代藩主池田宗政自筆の絵画・経典類がまとまって現存することも判明した。</p> <p>本展では、常住寺に伝わる仏教関係の資料を中心に展示し、仏像や絵画等に込められた藩主の祈りの痕跡を紹介する。</p>	
主要展示資料	毘沙門天立像 平安時代 常住寺蔵	
	不動明王坐像(二重厨子入) 江戸時代 常住寺蔵	
	池田綱政像 池田継政筆 江戸時代 常住寺蔵	
	金剛寿命陀羅尼経 池田宗政筆 江戸時代 常住寺蔵	
関連行事等	学芸員による展示解説 1/20(土)、2/3(土)、2/17(土)	
備 考	入館料 一般250円、65歳以上120円、高校生以下無料 会場 第4展示室	
成果・課題	藩主の祈祷寺としての常住寺の実態がより鮮明になったとともに、池田継政・宗政が奉納した絵画類の特色性を示せた。今後は藩主の書画類についてより精査し、他館との連携展示や研究報告等でその成果を示したい。	

展 示 名	岡山の戦国時代 ー赤松氏から宇喜多氏までー
期 間	令和6年2月29日(木)～4月7日(日)
趣 旨	<p>戦国時代の岡山では、備前の浦上氏や宇喜多氏、備中の三村氏ら、多くの戦国武将が覇権を争っていた。これまでは、『備前軍記』等の江戸時代の資料を元に語られることが多かったが、近年、文書資料等の発見や、古代吉備文化財センターによる中世城館等総合調査等の様々な成果がある。</p> <p>本展では、当館が所蔵または寄託を受けている赤松氏と浦上氏・宇喜多氏を中心に関係する資料を展示し、戦国時代を生き抜いていった武将たちについて紹介する。</p>
主要展示資料	<p>岡山県指定重要文化財 赤松満政寄進状 応永 3(1425)年 和気町 安養寺蔵</p> <p>岡山市指定重要文化財 宇喜多直家書状 年未詳 岡山市 西大寺蔵</p> <p>中国兵乱記 江戸時代 個人蔵</p>
関連行事等	学芸員による展示解説 3/2(土)、3/16(土)、4/6(土)
備 考	入館料 一般250円、65歳以上120円、高校生以下無料 会場 第4展示室
成果・課題	<p>戦国時代の古文書や江戸時代の軍記物約20点で構成したため、文字が非常に多い展示となったが、できる限り平易な説明や、大きな事件についての補助資料等を置くようにした。次回以降は、関連する武器・武具なども含めて展示を構成するよう心掛けたい。</p>

イ 教育普及事業

事業名	ジュニア学芸員講座
期間	令和5年8月8日(火)～8月10日(木)
概要等	<p>県内の中高校生が、実物の文化財の取り扱いや調査など学芸員の基本的な仕事を体験することで、岡山の歴史と文化に関する理解を深めるとともに、将来を考える機会を提供する。</p> <p><内容> 3日間の講義・実務・研修を行い、修了時に館発行の認定証を授与する。</p> <p>1日目 開講式、施設見学、文化財の取扱い(考古資料・陶磁器)、写真の撮影体験</p> <p>2日目 文化財の取扱い体験(日本刀、民俗資料)、他館訪問(岡山城天守閣)</p> <p>3日目 文化財の取扱い体験(美術品、古文書)、閉講式</p>
参加者数	中学生 9名 高校生 10名 計 19名
成果・課題	<p>20名の募集に対して、それを大きく上回る応募があった。実施後のアンケートからも参加者の満足度も高いことが窺え、参加者の岡山の歴史と文化に関する理解を深めることに貢献できたと言える。一方で、実物の文化財を取り扱うことから、一度に20名が参加することが適切なのか、あるいは希望者に対して現在の募集人数が少ないのではないかという参加人数の問題や、部活動などで多忙を極める中学生・高校生にとって3日間連続の事業は参加しづらいのではないかという日程の問題が今後の課題として挙げられた。</p>

事業名	館内授業・出前授業
期間	通年(令和5年4月～令和6年3月)
概要等	<p>県内の小中高校生等が、博物館で実物の文化財に触れたり展示を見学したりして学習する。また、学芸員が学校に出向いたり、古墳等の史跡見学に同行したりして授業を行う。</p> <p><授業テーマ例(学校からの要望に応じて対応)></p> <p>歴史 吉備の古墳の世界</p> <p>民俗 体験! 昔の暮らし</p> <p>美術 備前焼を知ろう</p>
実施校数	<p>館内授業 32校(小16、中2、高7、大5、特1、その他1)</p> <p>出前授業 7校(延べ10回)</p>
成果・課題	<p>再開館した年であるが、館内授業・出前授業ともに休館以前よりも実施数が少なくなった。出前授業は、小学校第3学年「昔の暮らし」学習の終了直後の希望が多く、日程が集中することとなった。また、地域学習としての博物館訪問や特別展の解説を希望する館内授業なども多く、多様なニーズがあることが見えた。</p> <p>今後は、学校向けに広報を早い時期から行い、学校のニーズに対応した博物館利用の幅を広げていきたい。また、雨天時の食事場所として講堂を使用したいというニーズが多かったことから、館内授業等で来館した学校は、講堂を利用できるということも周知していきたい。</p>

事業名	博物館講座
期間	令和5年6月4日(日)、11日(日)、18日(日)、25日(日)
概要等	<p>第一線で活躍する研究者と当館学芸員による連続講座を実施。(生涯学習大学連携講座) 4日間4講座(1講座90分)、定員120名、受講料1000円</p> <p>第1回 「仏教絵画の視座 -涅槃図の諸相-」 講師：安嶋 紀昭 (広島大学 大学院文学研究科教授)</p> <p>第2回 「軍記物の世界 -備前軍記と備中兵乱記-」 講師：内池英樹 (副館長)</p> <p>第3回 「江戸幕府の代官とその支配」 講師：平田良行 (学芸員)</p> <p>第4回 「150年前の感染症対策 -岡山に残された種痘の資料から-」 講師：木下浩 (学芸員)</p>
受講者数	56名
成果・課題	定員に比べて受講者数が大幅に下回った。4年ぶりの開催であるため、継続参加者が減少したこと、広報が行き届かなかったことが要因と考えられる。来年度は無料化し、受講者増を目指す。

事業名	中学校職場体験
期間	令和5年11月
概要等	<p>中学2年生を対象として、博物館での職業や仕事の実際についての体験を提供する。</p> <p><内容> 学芸業務や受付・看視等の仕事を体験</p>
実績	受入校 7校 参加生徒 17名
成果・課題	資料の取り扱いや SNS 発信原稿の作成など博物館の仕事を実体験する機会を提供した。公民館や図書館などを含む「公共施設」を希望した生徒が参加する場合も多く、体験を通じて博物館自体についても知ってもらうことができるよう、プログラムを引き続き考えていく必要がある。

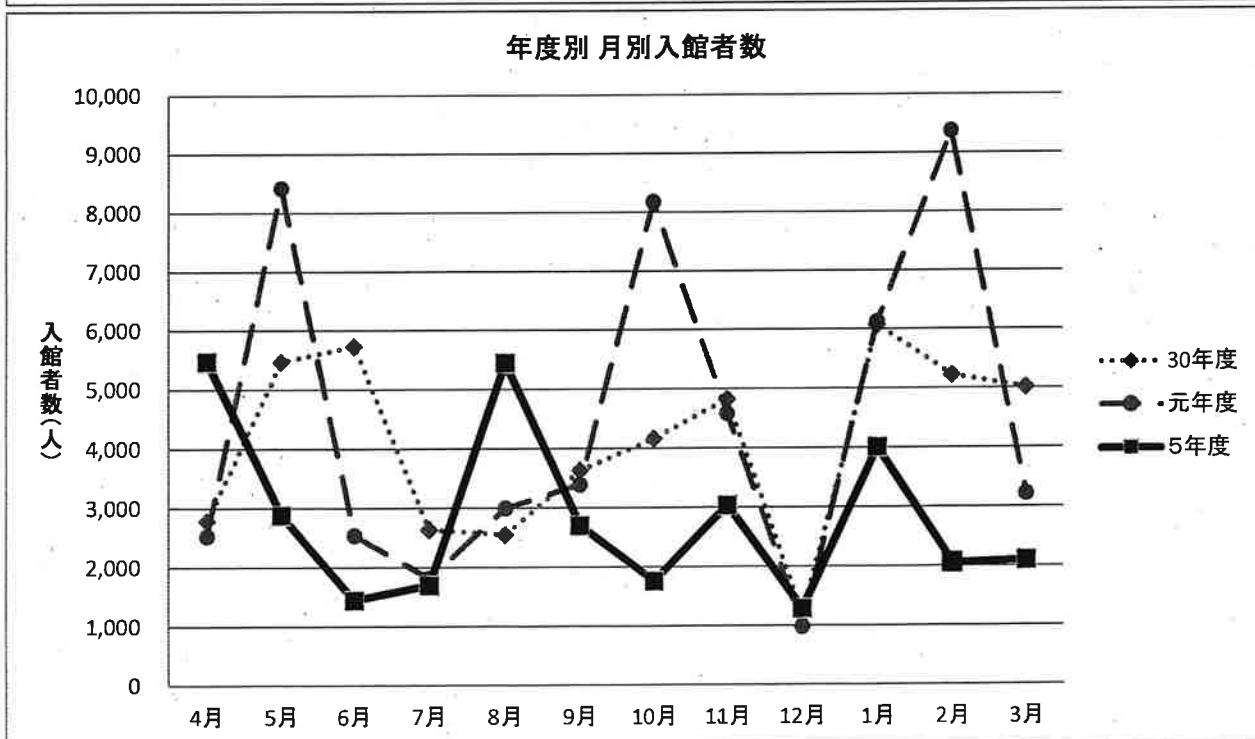
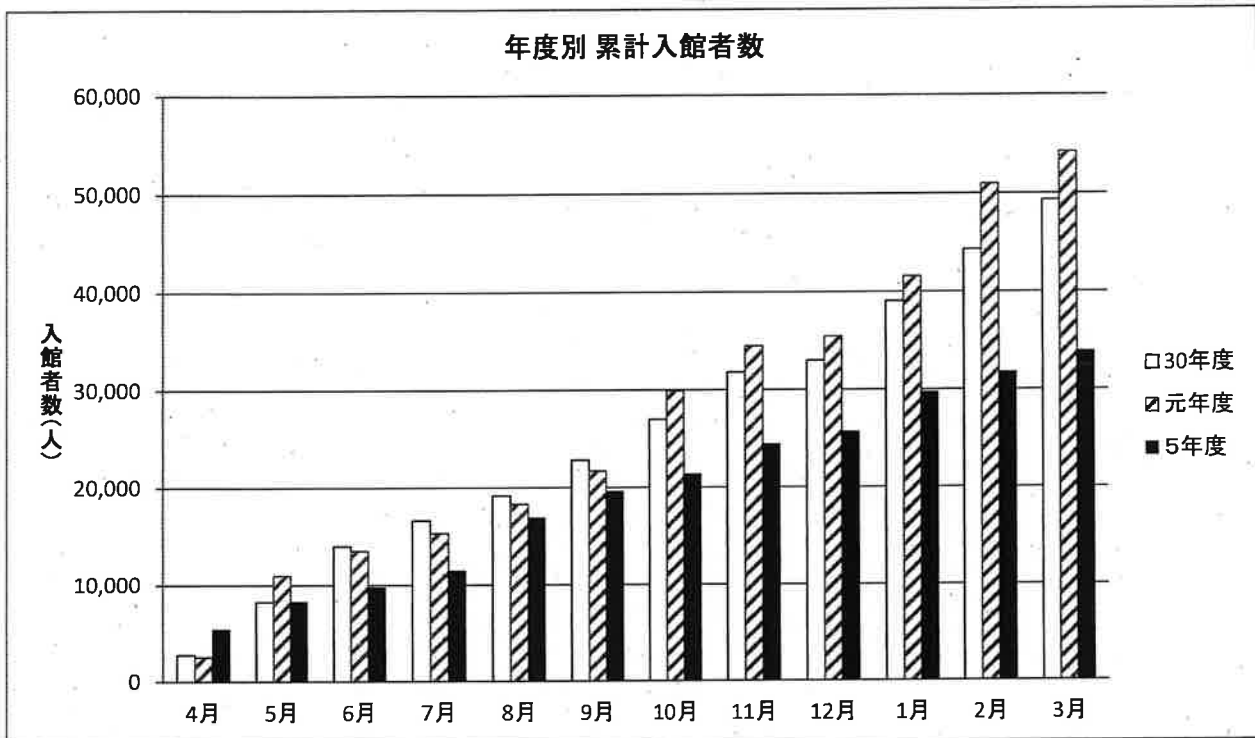
事業名	博物館実習
期間	令和5年8月1日(火)～5日(土)
概要等	<p>博物館法に規定する学芸員資格の習得を希望する大学生を対象に、博物館において実習の機会を提供し、人材育成に資するとともに博物館活動の普及を図る。</p> <p><内容></p> <p>①講義実習(3日間) 各分野の文化財の取り扱いを通してその特性を学ぶ</p> <p>②支援実習(2日間) 博物館の行事や展示替え作業を体験して実務を学ぶ</p>
実績	参加者 10名
成果・課題	県内の大学に通学する学生と県内出身の学芸員志望者を受け入れている。学芸員育成は博物館の大切な役割であり、実習経験者が学芸員として就職するなど成果も上がっているため、継続して実施していく必要がある。

ウ 入館状況

月別入館者数

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	3月12日現在
30年度	2,787	5,472	5,736	2,638	2,556	3,632	4,165	4,825	1,180	6,077	5,223	5,016	49,307	47,708
元年度	2,533	8,419	2,544	1,816	3,002	3,396	8,178	4,590	984	6,129	9,375	3,226	54,192	52,400
5年度	5,478	2,883	1,447	1,702	5,449	2,705	1,765	3,034	1,292	4,009	2,060	2,103	33,927	33,927

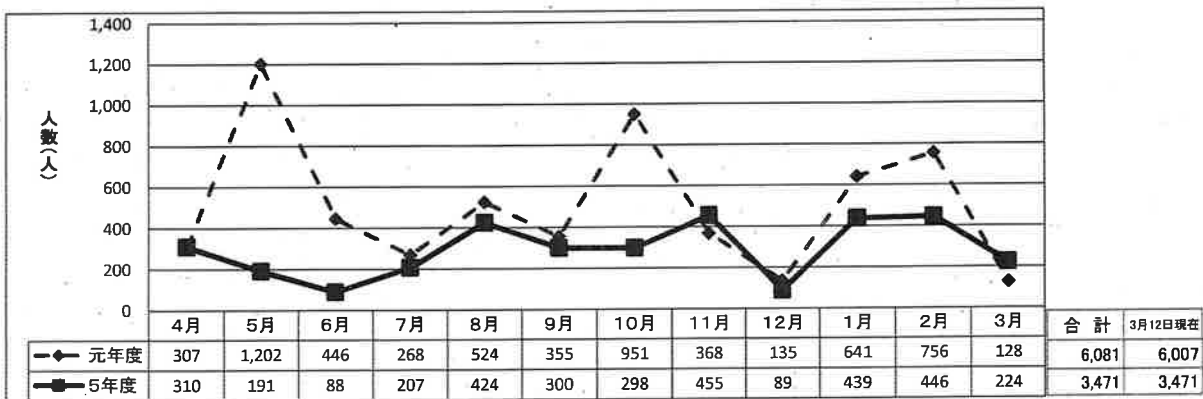


展覧会別入館者

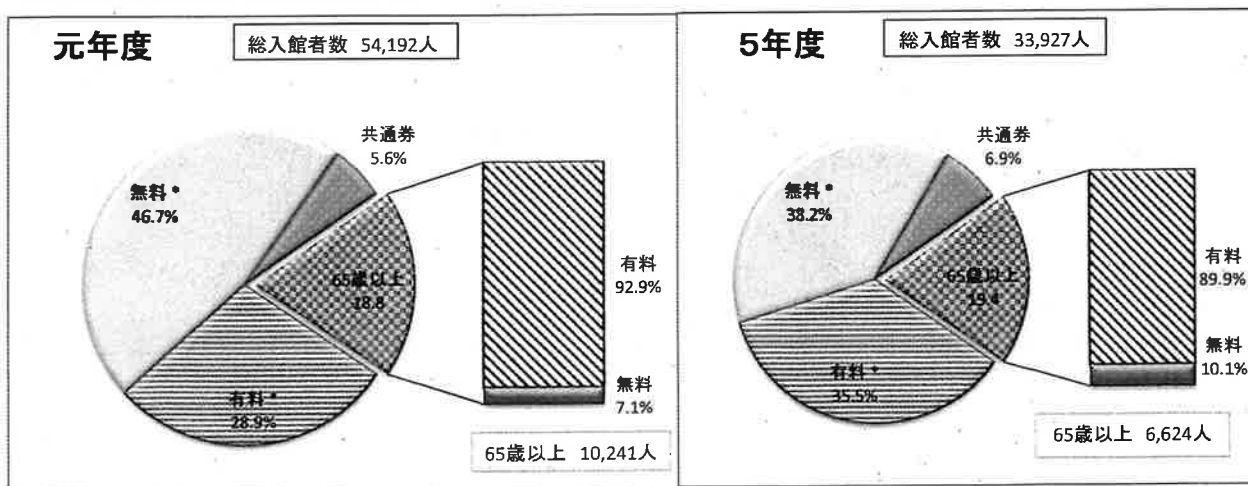
令和6年3月12日現在

展覧会名	入館者数実績	入館者の割合			
		一般	65歳以上	高校生以下	
テーマ展	名刀 福岡一文字の光彩	6,866人	74.9%	18.7%	6.4%
	美作勝山城の実態に迫る	2,504人	75.1%	19.5%	5.4%
	涼をよぶ岡山の伝統工芸 —花ござと撫川うちわ—	1,587人	69.9%	19.9%	10.2%
	正宗敦夫と正宗文庫	2,021人	66.7%	18.7%	14.6%
	八幡大塚古墳と尻島屯倉	4,344人	78.2%	11.1%	10.7%
	岡山藩主 祈りの寺 常住寺の寺宝	2,554人	60.0%	20.7%	19.3%
	岡山の戦国時代—赤松氏 から宇喜多氏まで—	2,140人	82.6%	6.9%	10.5%
特別展	慈悲のほとけ —観音と古寺の名宝—	7,443人	64.4%	28.3%	7.3%
	醸す—自然と技術が 育んだ岡山のお酒—	4,468人	64.0%	20.0%	16.0%
計	33,927人	70.3%	19.5%	10.2%	

高校生以下の入館状況



入館者別割合《令和5年度は3月12日現在の数値》



注: 有料* 無料* は、65歳未満の入館者をいう。

(2) 令和6年度展覧会計画(案)について

ア 展覧会

令和6年3月22日現在

	1階展示室 (考古・通史・民俗)	2階展示室 (テーマ展・刀剣・備前焼・工芸)
4/12～5/6 春季展 25(22)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 室戸台風	テーマ展「赤韋威鎧と備前の名刀」 岡山の戦国時代 江戸時代の絵画 備前焼
5/10～6/16 夏季展(1) 38(33)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 室戸台風	テーマ展 「清水宗治VS羽柴秀吉ー備中高松城の戦いー」 木喰仏と神像 備前の名刀 備前焼
6/20～7/21 夏季展(2) 32(28)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 絵馬(仮)	テーマ展 岡山県古代吉備文化財センター開所40周年記念 「吉備から岡山へー最新の発掘調査成果からー」(仮) 刀剣 備前焼
7/25～9/1 夏季展(3) 39(34)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 絵馬(仮)	テーマ展 「絵解きー地獄の世界をのぞいてみようー」 刀剣 備前焼
9/5～10/13 秋季展(1) 39(34)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 民俗	テーマ展「岡山の至宝ー正宗文庫の輝きー」 刀剣 備前焼
10/18～11/24 特別展①・秋季展(2) 38(33)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 民俗	特別展 「緒方洪庵ーその生涯と郷土岡山ー」(仮)
11/29～1/26 冬季展(1) 59(48)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 民俗	テーマ展「岡山の仏教美術」(仮) 刀剣 備前焼
1/31～3/16 特別展②・冬季展(2) 45(39)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 民俗	特別展 「茶碗ー茶の湯にふれるー」(仮)
3/20～ 春季展(1) 12～(10～)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 民俗	テーマ展「武器・武具」(仮) 刀剣 備前焼

〈特別展 概要〉

展 示 名	緒方洪庵 ―その生涯と郷土岡山― (仮)		
期 間	令和6年10月18日(金)～11月24日(日)		
趣 旨	<p>福沢諭吉が学んだことでも知られる大坂の適塾。この塾を開き、明治時代の日本をリードする人材や、医療で地域の人びとを救う人材を数多く育てた人物が緒方洪庵(1810-1863)である。備中国足守(岡山市北区足守)に生まれた洪庵は大坂・江戸・長崎で学問を修め、医者として、学者として活躍する。本展覧会では、書状など洪庵がみずから書いた資料を中心に展示し、洪庵の生涯とその業績を紹介する。</p> <p>また、洪庵は生涯を通じてふるさと岡山と関わりを持ちつづける。県下に残された洪庵ゆかりの資料なども合わせて展示し、洪庵と岡山のつながりにも迫る。</p>		
主要展示資料	適塾塾生等級別名簿	大阪大学適塾記念センター蔵	
	緒方洪庵肖像	大阪大学適塾記念センター蔵	
	種痘免状	個人蔵	
関連行事等	<p>(1) 記念講演会</p> <p>(2) 学芸員による展示解説</p> <p>(3) ワークショップ</p>		
備 考	入館料 大人450円、65歳以上220円、高校生以下無料	会場	第3・4展示室

展 示 名	茶碗 ―茶の湯にふれる― (仮)		
期 間	令和7年1月31日(金)～3月16日(日)		
趣 旨	<p>茶の湯では日本文化の魅力が大切に伝えられ、扱う道具には日本人の美意識があらわれているといわれる。なかでも茶碗はもっとも身近に感じる道具といえ、好まれる茶碗は時代とともに変わり続ける。展覧会ではあこがれの対象となった唐物茶碗や高麗茶碗を紹介し、そうした舶来品の影響を受けながらも、国内の流行を取り入れて展開していく和物茶碗を展観する。</p> <p>岡山県は茶の湯と関わりが深い備前焼や虫明焼を作り続けてきたこともあり、やきものに関心を持つ人が多い地域であるが、茶道具の所蔵先は関東や関西の都市部に集中し、県内でまとめて見ることは難しく、次世代がやきものの優品と出合う機会も減少している。そのため、最新知見を取り入れた展示であると同時に、優品が一堂に会する貴重な機会であると訴え、次世代へやきものの魅力を伝える。</p>		
主要展示資料	重要文化財 油滴天目	12-13 世紀	九州国立博物館
	重要文化財 青磁輪花茶碗 銘 馬蝗絆	13 世紀	東京国立博物館
	重要文化財 黒楽茶碗 銘 ムキ栗 長次郎作	16 世紀	国(文化庁保管)
関連行事等	<p>(1) 記念講演会</p> <p>(2) 茶碗についての座談会</p> <p>(3) 呈茶</p> <p>(4) 学芸員による展示解説</p>		
備 考	入館料 一般450円、65歳以上220円、高校生以下無料	会場	第3・4展示室

イ 予算

令和6年度予算

【歳入】

(単位：千円)

財源内訳	6年度	5年度	増減	備考
使用料及び手数料	4,107	3,892	215	入館料、講堂使用料
諸収入	3,358	2,398	960	電気代私費負担分
一般財源	88,161	86,859	1,302	
合計	95,626	93,149	2,477	

【歳出】

(単位：千円)

項目名	6年度	5年度	増減	備考
①展覧会事業	18,600	22,749	▲ 4,149	特別展開催経費の減
＜内訳＞				
・テーマ展(6回)、平常展	5,445	5,052	393	
・特別展(2回)	13,155	17,697	▲ 4,542	
②教育普及事業	200	228	▲ 28	
＜内訳＞				
・博物館講座	200	228	▲ 28	
③資料購入費(修繕費)	285	285	0	
④資料保存地域支援活動	213	213	0	
⑤博物館協議会	295	301	▲ 6	
⑥維持管理費	76,033	69,373	6,660	人件費、光熱水費高騰による増
合計	95,626	93,149	2,477	

(3) 長期展覧会計画(案)について

年 度		特 別 展	
6	2024	緒方洪庵 —その生涯と郷土岡山— (仮)	茶碗 —茶の湯にふれる— (仮)
7	2025	岡山の藺草(仮)	岡山県立博物館優品展 【美術・工芸】(仮) (変更の可能性あり)
8	2026	岡山の涅槃図(仮)	岡山県立博物館優品展 【考古・歴史・民俗】(仮) (変更の可能性あり)

岡山県立博物館協議会委員

任期2年（令和5年2月5日～令和7年2月4日）

令和6年3月22日現在

番号	氏名	区分	現職	就任年月	備考
1	藤原陽子	学校教育関係者	瀬戸内市立国府小学校長	R 4. 5	
2	忠政勇之	"	美作市立美作中学校長	R 4. 5	
3	辻田詔子	"	県立総社南高等学校長	R 5. 2	
4	栗原宏之	社会教育関係者	岡山県生涯学習センター所長	R 5. 4	
5	明楽香織	"	NPO法人らんとん職員	R 5. 2	
6	美咲美佐子	家庭教育関係者	NPO法人岡山市子どもセンター代表理事	H31. 2	
7	池田千鶴	学識経験者	(株)ビザビ コンテンツ開発局 編集チーム課長	R 3. 2	
8	岡野英美	"	NPO法人 ENNOVA OKAYAMA 正会員	H29. 2	
9	岡本隆明	"	(株)山方永寿堂代表取締役会長	H23. 2	
10	光本順	"	岡山大学学術研究院社会文化科学学域 准教授	H26. 7	
11	三田智子	"	就実大学人文科学部総合歴史学科 准教授	H31. 2	
12	伊勢崎晃一郎	"	日本工芸会中国支部陶芸部会委員	H31. 2	
13	内田章文	"	RSK山陽放送(株)取締役秘書室長	R 3. 2	
14	岡田智美	"	(株)山陽新聞社編集局文化部長	R 5. 2	
15	鳥井良輔	"	岡山県議会議員	H27. 6	

岡山県立博物館協議会条例

〔昭和46年6月25日
岡山県条例第47号〕

(設置)

第1条 岡山県立博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、岡山県立博物館に岡山県立博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(委員の任命の基準)

第2条 協議会の委員（以下「委員」という。）は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

(委員の定数)

第3条 委員の定数は、20人以内とする。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(その他)

第5条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営について必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、昭和46年7月1日から施行する。

2 (略)

岡山県立博物館協議会運営規則

〔昭和46年7月1日
岡山県教育委員会規則第13号〕

(趣旨)

第1条 この規則は、岡山県立博物館協議会条例（昭和46年岡山県条例第47号）第5条の規定に基づき、岡山県立博物館協議会（以下「協議会」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(議長及び副議長)

第2条 協議会の会議（以下「会議」という。）に、議長及び副議長を置く。

2 議長及び副議長は、岡山県立博物館協議会の委員（以下「委員」という。）の互選により定める。

3 議長及び副議長の任期は、委員としての在任期間とする。

4 議長は、会議を主宰する。議長に事故のあるときは、副議長がその職務を代行する。

(招集)

第3条 会議は、岡山県立博物館長が招集する。

2 会議の招集は、会議開催の場所、日時及び会議に付すべき案件をあらかじめ各委員に通知して行なう。ただし、緊急の場合は、この限りでない。

(定足数及び表決)

第4条 会議は、委員の過半数以上が出席しなければ開くことができない。

2 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(職員の説明及び資料の提出)

第5条 委員は、会議において関係職員に対して、説明又は資料の提出を求めることができる。

(職員の出席)

第6条 関係職員は、会議に出席して意見を述べるができる。

(その他)

第7条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は協議会が別に定める。

附 則

(施行期日)

この規則は、公布の日から施行する。

職 員 一 覧

教育委員会事務局

職 名	氏 名	備 考
文化財課長	浜原浩司	

岡山県立博物館職員

職 名	氏 名	備 考
館 長	細 川 誠	
副 館 長	内 池 英 樹	(学芸課長事務取扱)
総 務 課	課 長	間 野 良 一
	副 参 事	平 井 利 尚
	主 任	上 岡 義 貴
	主 事	荊 木 淳
学 芸 課	学芸員(副参事)	重 根 弘 和
	学芸員(主任)	木 下 浩
	学 芸 員	岡 崎 有 紀
	学 芸 員	松 井 今 日 子
	学 芸 員	平 田 良 行
	主 事	宇 垣 匡 雅